

ご寄付ありがとうございました！



去年は気持ちのこもった多額のご寄付をいただき、心より感謝申し上げます。被災地障害者センターくもとでは、被災障害者のSOS依頼に応えるべく活動してまいりました。

避難所への物資運搬や配布、介助、り災証明書等の申請代行や同行、住居探しや仮設住宅への引っ越し、片付けなど、9ヶ月経った今でもSOSが入ってきております。皆様から頂戴しましたサンタリーケーキは女性の方に喜んでもらえました。そのうえ寄付金までいただき、これらの活動をおこなうための資金として大切

被災地障害者センターくもと 事務局長 東 俊裕

に使わせていただいております。

当センターはSOS支援を継続し、被害のもっとも大きかった益城町へ拠点を移動。「障害者がともに暮らせる地域創生館」として、障害者が地域で安心して暮らせる活動を展開してまいります。

引き続き皆様の応援をよろしくお願い申し上げます。



▲新拠点となる建設中の施設

熊本地震支援チャリティコンサート

郡司美穂(ハートフルファミリー会員)



▲郡司美穂さん

熊本は以前通っていたことがありました。のどかで大好きな所でしたので被災に際し、とても胸が痛みました。いつもお世話になっているこころのビタミン研究所さんと一緒に少しでも何かできたらと思い、ピアノとお話によるチャ

リティコンサートを企画・開催しました。

一人でやるコンサートもチャリティも初体験でしたが、多くの方に応援していただき、64,912円を寄付することができて私自身とても励まされました。こころのビタミンの皆さま、そしてすべての方に感謝の気持ちでいっぱいです。

今後のこころのビタミンのイベント日程

皆さまの多大なる応援に感謝をこめて今年も開催！
2017年4月15日(土)

ハートフルファミリーの集い

☆時間・会場などについては詳細は追ってお知らせ致します。

学び塾猫の足あと代表・岸田久恵さんをはじめ、今回レポートした3つの子ども支援団体からそれぞれゲストスピーカーをお招きし、お話し頂く予定です。ご期待ください！

♡ ご支援よろしくお願いします!! ♡

ハートフルファミリー・寄付・バングラデシュ支援・ハイチ支援
東日本大震災支援・熊本地震支援・子ども支援

【振込先】

郵便局：ゆうちょ銀行 記号10100 番号77011271

銀行口座：三井住友銀行 三田通支店 普通 7852939

口座名(郵便局・銀行共)：

特定非営利活動法人こころのビタミン研究所

<ハートフルファミリーにようこそ!>

2016年7月1日～2017年1月20日までにHF会員になられた方々

衛藤 尚美 株式会社カケラ 田辺 友紀子 橋本 宏和
柏元 忠子 川崎 朱実 中塚 友子 橋本 陽子
金子 章子 佐竹皓太・葉子 中山 美鈴 真鍋 純子
(五十音順、敬称略)

〒108-0073

東京都港区三田3-1-5 第一奈半利川ビル3F

TEL：03-5765-1956 FAX：03-5765-1961

E-mail：info@cocoro-v.org

URL：http://www.cocoro-v.org

ブログ：http://ameblo.jp/cocoro-v



2017年2月

NO.21

ビタミンニュース



特集『子ども支援 ～子ども達は私達の未来～』

現代の日本は、格差社会で経済的に困窮する人の割合が年々高くなり、とくに子どもの貧困と孤立化が深刻な問題となっています。こころのビタミンでは、未来の宝である子ども達の成長に貢献できるよう活動を始めました。今回は子ども支援活動をしている3つの団体見学レポートをお届けします。



子ども達が未来に希望を持って
成長できるように貢献したい

栗原弘美(代表理事)

こころのビタミン研究所は、設立以来14年間バングラデシュの多目的センターを、そして11年前からはハイチの医療センターを支援してきました。一方で国内の活動はこころの勉強会、貢献を主とした英語教材づくりや石鯨プロジェクト、東日本大震災や熊本地震の際はセミナーやカウンセリングの実施など、その時々ニーズに合わせた活動をしています。

OSK(おせっかいクラブ)というビジョンを掲げ、困っている人に勇気を持って手を差し伸べるという意識の啓蒙にも努めてきました。そんな中で、今私達は次のステップとして、日本の子ども達の幸せと健康に目を向けていきたいと考え始めています。

日本は物質的に豊かな国とされていますが、貧富の差は年々開くばかり、経済的に困窮している

人の割合も高くなっています。中でも私達が憂いているのは、子どもの貧困と孤立化の問題です。

ご飯を十分に食べていない子、夜に親が働いていて一人でご飯を食べている子、親が奨学金で高校に行かせていたことを後で知り、就職したものの返済が肩にのしかかっている子など、大人がよく見ていないとわかりにくい形での貧困や子育ての問題が増えているように感じます。

このような問題はすでにメディアでも取り上げられ、子ども食堂や学習支援などに取り組んでいる地域やボランティア団体、個人の方もたくさんいらっしゃいます。私達はそういうところに寄付をし、出向いてお話を伺い、こころのビタミンとして何ができるのかを模索中です。

子ども達は私達のかけがえない宝です。子ども達が愛されている、自分には価値があると感じ、未来に希望を持って成長できるように貢献したいと思うのです。どうか皆さんの慈愛や知恵をお貸しください。2017年もこころのビタミン研究所をよろしくお願いいたします。



【渋谷区】ピアサポートネットしぶや

レポーター 島倉潤子・湯田佐恵子(理事)

引きこもり・フリーター・ニートなどの問題を抱える若者が、再び社会とつながり生きていけるよう支援している『NPO法人ピアサポートネットしぶや』は、虐待防止の地域ネットワーク「渋谷ピアネット」を通じて、現在渋谷区内に6ヶ所の子ども食堂を開設しています。今回は渋谷・初台駅から徒歩1分のところにある『ずっと食堂初台ガイラ』にお邪魔しました。

ずっと食堂では月1回、地元の小中高生を対象に食事付き夜の居場所と学習支援をおこなっています。夕食は手作り味が魅力です。この日は

たまたま民間の会社が、新たな子ども食堂立ち上げを検討をするため相談に来ていました。

渋谷区では、核家族や共働きが多く、「保護者の孤立、子どもの孤立」が増加傾向にあります。ピアサポートネットしぶやは、法人設立以前から区内で放課後の居場所づくりをおこなっていましたが、夜の居場所の必要性を感じ、子どもの足で行ける範囲に活動拠点を設けて、中学校区単位で10ヶ所に広げていきたいと検討しています。





【西東京市】学び塾 猫の足あと

レポーター 磯田江利子(理事)



学び塾 猫の足あと代表
岸田久恵さん

西東京市にある学び塾「猫の足あと」は、小学校教員だった岸田久恵さんご家族が2011年に立ち上げました。当初は塾に通っていない中学3年生を対象にしていたが、だんだんと活動の幅を広げ、現在では月曜日に中3対象の勉強会、木曜日に中学生全般

の勉強会、週2回小学生の宿題クラブをおこなっています。

昨年には「猫の足あと」ハウスを私財を投じて新築し、1階を教室、2階を若者に格安で住居として貸しています。中学生の勉強会を見学すると、7～8人の中学生が大学生に勉強をみてもらっていました。勉強会に来る子は夕食も食べることができます。子ども達は和やかな雰囲気の中、リラックスして勉強に励んでいます。



▲和やかな雰囲気の中、リラックスして勉強に励む子供達



▲子ども達の勉強を見守る岸田さん

マスコミで取り上げられたことで注目を浴び、多くの援助の手がきています。近隣の住民からの食材提供や、お米を送ってもらったこともあるそうです。ボランティアで来ている大学生の中には、以前ここで自分がお世話になり恩返しとして勉強を教えているという方もいます。小学生の宿題クラブに来ているボランティアも、退職された方や子育てが終わった方などが楽しんで相手をされています。

岸田さんは「私財を投げ打って活動している」という報道に対し「私財を投げ打ったのは夫で、私はやりたいことをやってただけなんです」とニコニコして話されていたのがとても印象的でした。岸田さんご主人は、現役の中学校教師です。

岸田さんがやりたいことを存分にできるのは、理解し協力してくれるパートナーがあつてこそ。パートナーシップの大切さ・素晴らしさを目の当たりにしました。

岸田さんに直接お話を聞いたら、子どもの貧困問題に興味を持ち、もっと支援したいと思って頂けるのではないのでしょうか。私自身もそれをリアルに感じ、何かできることはないかと考える良い機会を頂きました。

は、イベントがあるたびに参加を呼びかけられた近所の独り住まいであったり、調理スタッフもボランティアで多くの方が参加しています。



今回ご紹介したピアサポートネットしずや様、学び塾 猫の足あと様、ほっとすぺーす・つき様へ子ども支援活動の第一歩として、こちらのビタミンから各団体に30万円ずつ寄付させて頂きました。

世界の友人達からメッセージ



皆さまの継続的な力づくに感謝



アタウル・ラーマン・ミトン
HFW Bangladesh 事務局長

皆さんには 毎年多額の寄付だけでなく、オフィススタッフ、村のリーダー達にビジョン心理学セミナーを通して継続的に力づけいただいています。

栗原弘美先生は毎年バンングラデシュを訪問し、2日半のセミナーを通して国のビジョンでもある“ビジョン2021”の推進にも影響を与えてくれています。バンングラデシュでのセミナーテーマは、“ビジョン、リーダーシップ、パートナーシップ”の力づけです。

このビジョンはバンングラデシュが2021年までに最貧国から中間収入国に変容し、飢餓と貧困のない国として独立50周年を祝うことです。



バンングラデシュから愛をこめて



アンジュマン・アカター
HFW Bangladesh スタッフ

バンングラデシュから愛をこめて新年のごあいさつです。ビジョン心理学を通して私の人生に愛を吹き込んでくださり、弘美先生には感謝せずにいられません。

いづどこにいても弘美先生が教えてくれた愛とサポートのあり方と一緒にいます。そのおかげで周りの人達、とりわけ女性達に接するときに、この愛とサポートを拡げることができます。

バンングラデシュの女性達は勝利しているときでさえも、

皆さんのサポートのおかげで、子ども達に良質な小学校教育を提供するための学校経営や職業訓練開発センターが運営でき、コンピューターのクラスや縫製教室などで地域の若者・女性達が訓練を受けることができています。

飢餓をなくす女性達の自助グループ「ウイメン・エンディング・ハンガー(WEH)」では、首都から離れている農村地帯の女性を力づけています。自分達の力で「笑顔賞」と名づけた活動を立ち上げ発展促進をしています。

このように、こころのビタミンの貢献は多方面で役立ち、大きな力を与え何千人もの、特に女性達の人生にポジティブな変化をもたらしてくれています。

アンジュマン・アカター

笑顔を忘れがちです。顔を隠しハートを悲しみでいっぱいにしています。

でもビジョン心理学を学んだ人達は喜びとともに人生を歩んでおり、夫婦関係も幸せです。カリガンジの学校の先生やセミナーでグループ・リーダーをしてくれた人達も、夫や家族との関係が非常にうまくいっていると幸せそうに分ち合ってくれています。

彼女達はハンガー・フリー・ワールドの活動でもいろいろな場面でサポートしてくれています。ビジョン心理学、そしてこころのビタミンの皆さんに感謝をこめて、幸せと喜びを祈っています。



ハイチ医療センターの近況活動



センチル・ラゲルIAH代表

2016年7月から12月までの活動状況は順調です。サービスも向上し患者数も増え、700人以上になりました。この期間は、コレラ、チクングンヤ熱(デング熱の一種)、マラリア、チフスの治療が多かったです。

性病など特定地域に起こりやすい感染症の治療も増え、150人ほどの子どもと5歳以下の乳幼児がワクチン接種を受けました。また栄養不足と低体重を補うため小麦粉 ビタミンA・粉ミルクなどを配給しています。

もっとも大きな活動になったのが、11月のハリケーン・マシュー被災者への支援です。甚大な被害で5つの地方が壊滅状態となりました。西南部のジェレミー市、

センチル・ラゲル

南部のカイエス市、北西部のポルト・デ・ベクスなど、道路・大規模園・農場・動物・森林・住宅が大きな被害を受け、雨、風、洪水などで800人以上の死者が出ています。

こころのビタミン研究所からの緊急追加支援(5,000ドル)のおかげでIAHでは、ジェレミー市郊外の田舎に住む200人に、マットレス・食糧・ビタミンセットや日用品などを支給できました。

年明け1月には援助をまったく受けることができないジェレミー市のさらに遠隔地に住む村人達に向けて支援物資を届ける予定です。

私達がこうして活動できるのも、皆さんがパートナーでいてくださるからと心より感謝しています。引き続きご支援・ご協力よろしくお願い致します。



【千葉県】ほっとすぺーす・つき

レポーター 徳富隆子(理事)

NPOほっとすぺーす・つきは、平成26年に発足した社会福祉士を中心とした千葉県佐倉市にある団体です。「ここに来れば話せる人がある」をコンセプトに、支援を必要としている人への居場所づくりや地域力の向上、子どもの学習支援などの活動に取り組んでいます。

毎週水曜日が恒例の子ども食堂です。クリスマスなどには、楽しい催しを開催しています。学校を終えてきた子ども達は、調理スタッフに混じってジャガイモむきや、ケーキの飾りつけなども一緒に行ないます。

「家でも料理してるから得意だよ」

そういう彼らの包丁さばきはとても上手です。年配の方